

藤沢記者クラブ各位

藤沢を挙げて TOKYO2020 を支援

市民協働の誘致・支援委員会を設置します

2020年東京オリンピック・パラリンピックへの期待もますます高まっています。藤沢市では、先月に庁内組織を立ち上げ、検討を進める中で、市民、関係団体などと一体となって全市的に大会を支援する体制が大切であると考え、この度、市民協働による誘致・支援委員会を設置することとしましたので、お知らせします。

「レガシー」が育んだ文化を未来へ

藤沢市は、1964年東京大会においてヨット競技の会場として利用され、それ以来国内有数のヨット競技会場として、湘南の文化とともに競技と選手を育んできました。また、ビーチバレーについては、国内発祥の地として全国大会が開催されるなどの実績を有しています。これらの経験と文化を未来につなげるためにも2020年大会の支援を強化していきます。



市民協働組織「(仮称) 未来(あした)をつかむ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市誘致・支援委員会」

オリンピック・パラリンピック競技大会への支援は、行政だけでは限界があり、また競技者の視点や観客の視点はもとより、すべての人が「主人公」となる2020年の夏を創造していく必要があるため、全市的な支援体制を構築していきます。去る2月7日には、スポーツ、商業、観光、市民ボランティア等の市内関係団体が集まり、基本的な方向性を確認したことから、市内関係団体を発起人として、市民協働組織「(仮称) 未来(あした)をつかむ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市誘致・支援委員会」を早期に設置していきます。

(市内関係団体)

- | | |
|------------|-----------------|
| ✓藤沢商工会議所 | ✓藤沢市体育協会 |
| ✓藤沢市観光協会 | ✓藤沢市みらい創造財団 |
| ✓藤沢市商店会連合会 | ✓藤沢市社会福祉協議会 |
| ✓湘南産業振興財団 | ✓藤沢市市民活動推進連絡会 等 |

(今後の取組)

早期に委員会を設置するとともに、練習会場を含めた競技の誘致・支援の「場」と「輪」を広げるため協力要請、委員等の参画、また様々な視点からの支援策を創造するための外部識者等の委員参画等について取組を進めます。

庁内組織「2020年東京オリンピック・パラリンピック藤沢市庁内推進会議」

オリンピック・パラリンピックの機会を捉えることで、スポーツ分野だけでなく、様々な分野において高い効果が期待されるため、1月23日に庁内組織として2020年東京オリンピック・パラリンピック藤沢市庁内推進会議（「推進会議」）を設置しました。推進会議では、関係機関との連携のもとに次の取組を進めます。

(期待される主な効果)

- ✓大会関係事業による観光誘客
- ✓青少年・市民スポーツ活動の推進
- ✓国際交流の促進
- ✓教育における国際化の推進
- ✓市内経済の活性化
- ✓シティプロモーションの推進
- ✓ボランティア活動の推進

(取組事項)

- ✓2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における会場等に関する事項
- ✓県、市民、企業、関係団体等との連携強化策に関する事項
- ✓市としてのプロモーション手法等に関する事項
- ✓経済、スポーツ関連団体等により構成する市内組織の設立に関する事項

【参考資料】

(「(仮称)未来(あした)をつかむ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市誘致・支援委員会」組織図(想定))

*この資料に関する問い合わせ先

藤沢市企画政策部 企画政策課

担当： 白井

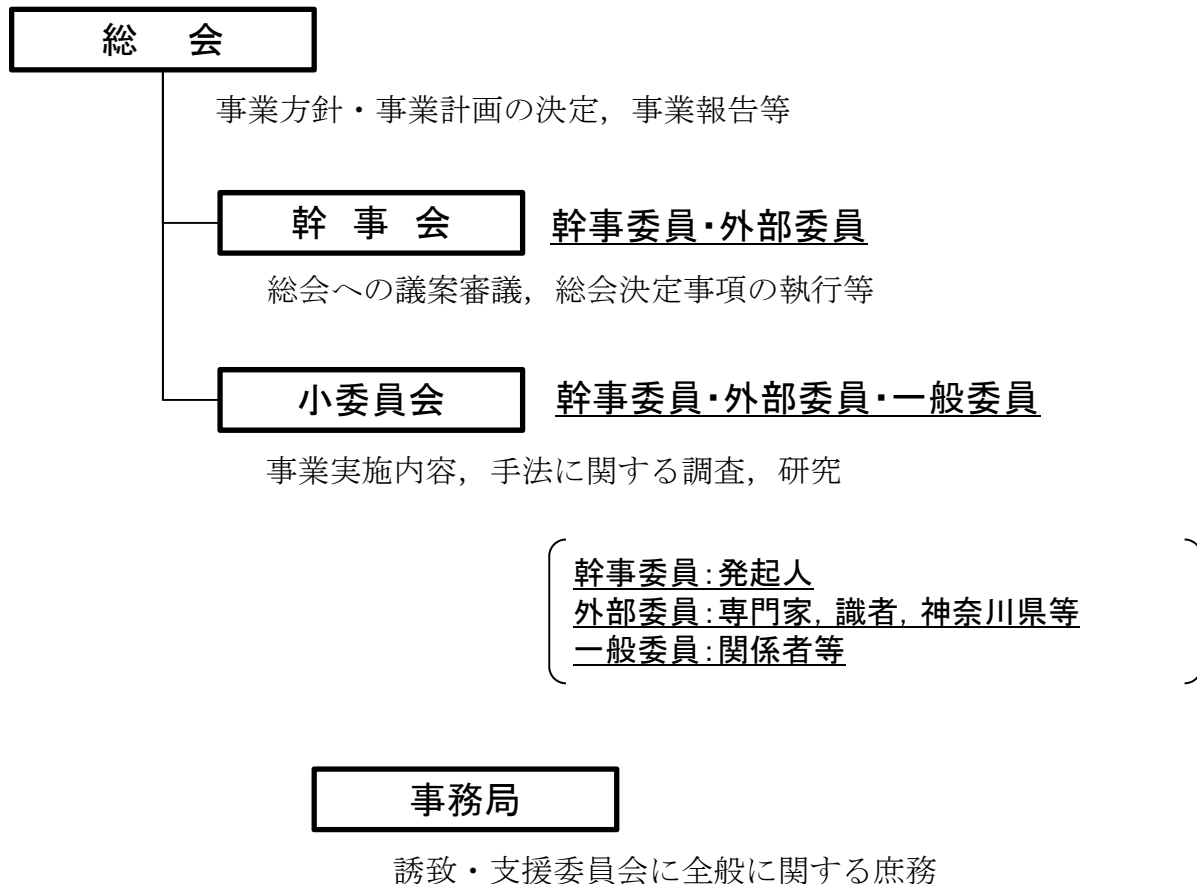
内線： 2173

直通： (0466)50-3502

(市民協働組織)

(仮称)未来(あした)をつかむ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市誘致・支援委員会 組織図(想定)

委員長・副委員長・監事(各1名)



(庁内組織)

2020年東京オリンピック・パラリンピック藤沢市庁内推進会議

- 市長, 副市長, 教育長ほか部長等により構成
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における練習会場等を含めた競技の誘致, 県・市民・企業・関係団体等との連携強化策, シティプロモーション手法等に関する事項を検討
- 2014年1月23日設置